

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	令和4年度第1回武蔵村山市立図書館協議会
開 催 日 時	令和4年5月21日(土)午前10時から午前11時00分まで
開 催 場 所	市民総合センター3階 中会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：清水会長、草間副会長、押本委員、有吉委員、木村委員、 森田委員、山田委員、高橋委員 欠席者：豊泉委員、清野委員 事務局：教育部長、図書館長、図書館係長
議 題	1 武蔵村山市図書館協議会会長及び副会長の選出について 2 その他
報 告 事 項	1 武蔵村山市立図書館の概要について 2 図書館利用の状況について 3 図書館当初予算について 4 第四次子供読書活動推進計画策定について 5 電子図書館の導入について
結 論 (決定した方針、残 された問題点、保 留事項等を記載す る。)	議題1：武蔵村山市図書館協議会会長及び副会長の選出について 清水委員を会長に、草間委員を副会長に選任した。
審 議 経 過 (主な意見等を原則 として発言順に記 載し、同一内容は 一つにまとめる。) (発信者) ○印=委員 ●印=事務局	<p>議題1：会長及び副会長の選出について 会長及び副会長の互選を行なったところ、委員から事務局に案がないかとの意見があり、一同の承認を受け会長には清水委員、副会長には草間委員が選任された。</p> <p>議題2：その他 なし</p> <p>報告事項1：武蔵村山市立図書館の概要について ● 武蔵村山市立図書館の概要について、会議資料に基づき説明した。</p> <p>【質疑・意見等】 ○ 特になし</p> <p>報告事項2：図書館利用の状況について ● 図書館利用の状況について、会議資料に基づき説明した。</p> <p>【質疑・意見等】 ○ 資料6 図書館利用の状況についての③有効登録者数でこのうち子供が占める比率はどうなっているのか。 ● 手持ちの資料に細かいものは用意していないので詳細についてはわかりかねる。</p> <p>報告事項3：図書館当初予算について ● 図書館当初予算について、会議資料に基づき説明した。</p> <p>【質疑・意見等】 ○ 特になし</p>

報告事項4：第四次子供読書活動推進計画策定について

- 第四次子供読書活動推進計画策定について、会議資料に基づき説明した。

【質疑・意見等】

- 第四次子供読書活動推進計画策定の21ページの基本施策③No.1「学校図書館のシステム化を検討します。」について、前回の第三次計画から項目としてあるものか。
- 第三次計画からあるもの。こちらは、どのくらいの予算規模なのか、また資料の収集等していると聞いているが、明確にいつごろどう動くのかについては決まっていない状況と聞いている。
- 計画に載っているののでできるだけ早めに進めていただければと思う。
- 21ページの同じ表の8「1人1台端末を利用した電子図書の導入を検討します。」で今現在どのような方向性なのか教えてほしい。
- この部分については図書館事業と離れているので明確にはわからないが、試行実施校の1クラスもしくは2クラス分のアカウントを用意し、ある学年でテストをして電子図書を授業に生かせるか検討するという方向で進めていると聞いている。
- 11ページにステップアップ講座、ボランティア養成講座の開催回数の推移が載っているが令和2年度はコロナの関係でできなかったと思うが、今後の予定について聞きたい。
- 令和2、3年度については、コロナの関係で集まる機会も作れない状況だった。今年度については、年度の後半になると思うが開催したいと考えている。内容については少し時間が空いたことと読み聞かせを行う方々がお年を召している方が多いことから人の多く集まる場所に行くのが、というのもあるみたいで若干抜けていく方が多いような状況であると聞いている。そういった中で養成というところからではなく、人を集められるところから考えて講座をしていく必要があると考えている。
- ボランティアの育成の観点から年配の方がお辞めになったり、老人ホームなどで読み聞かせの受け入れが全くないので少し沈滞ムードになっている。読み聞かせだけではなく、紙芝居の講座の企画は予定していないのか。
- 現在そこまではまだ考えてはいない。コロナが落ち着いて、講座の中でそのようなものもステップアップしていくのかなと考えている。

報告事項5：電子図書館の導入について

- 電子図書館の導入について、会議資料に基づき説明した。

【質疑・意見等】

- 予算のところでシステム利用月額料金だが、冊数のボリュームが増えても変わらないのか。
- システム利用料については、複数の業者から見積をした中で月額約10万円となっている。見積金額の高い業者の内訳は、青空文庫という著作権が切れた図書を電子化したものを使えるパッケージをつけて約10万円という見積である。システムの使用料は冊数によって金額は変わらない。人口の規模によって額が変わるときいている。人口が多くなって利用者が増えると変わってくる。
- 書籍代として915万円計上されているが、買い切り型の図書約800万円と言われたが何冊位なのか。

- 紙の本も値段それぞれだが、買い切り型の図書の平均が一冊4千円、期限のあるもので月2,800円が平均となっている。業者によっても取り扱える出版社に違いがある。今後プロポーザルで決まる業者によってこの金額が変わってくる。
- 電子図書化の流れというのは全国的に紙ベースを駆逐していくのか、今しばらく併用でいくのか、時代の流れが電子図書化に代わるのならば思い切って電子図書に舵をきって、紙を電子図書にすれば学校のシステム化はいらなくなるかなと思ったりして、予算がない中でどういう流れになっているのかを聞きたい。大学の方でも全国的にどんな流れで行くのか、どんな見通しをもって計画していけばよいのか情報があれば教えてほしい。
- 全国では把握していないが、東京26市の中で10市が導入している。コロナの調整交付金を使って導入した市がかなりある。作家が創作し紙の本になる。それを電子図書にしても良いと許諾を出さないと電子書籍は作られない、作者の中で人気のある方は、紙でしか出版しないという方もいる。タイトル数のなかでどれだけ人気のあるタイトルを借りられるかにある。図鑑など電子図書化されるまで時間がかかるというところもあるかもしれない。
- 大学図書館での事例だが、ピンポイントで物事を探すとき電子情報は、非常に便利なツールであるが、紙媒体の場合は視界に他の情報が入ってくることによって、違う側面からの情報を入手することができ、様々な展開ができる。電子の世界では、こういうことはできないので、電子情報の取り扱いはまだ研究が必要である。特に子供たちが本を見る中では、目的が決まっていて、本を探す場合ではないときに、視界にどんな情報が入ってくるかによって、いろいろな想像ができるようにするには、電子情報は難しい気がする。
- 子供たちにとっての電子書籍の読書に興味があるのだけど、確かに目的が明確ではないときに使用したとき、余計なものが入ってこないの逆で逆になのかと、本を読むって意味では電子だろうと紙媒体であろうと一緒にだと思っただけで教育的には全く同じと考えて良いのだろうか。
- それはその子によってそれぞれではないか、若い教員をみると本当に抵抗なくギガスクール構想に対応しているところがある。育った環境とか自分の好き嫌いとか感性に応じてではないか。時代がそういう風になっていくので、そういう風になったならばその時々ニーズに合わせて子供が何を求めているのか、あるいは時代が何を求めているかを考えながら指導をしていかなければならないと思っている。

その他

- 次回以降の会議の開催時間についての説明を行った。
- 次回の開催予定については7月頃を予定の説明を行った。

<p>会議の公開・ 非公開の別</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 () </p> <p style="text-align: right;">傍聴者： <u> 0 </u> 人</p>
-------------------------	--

<p>会議録の開示・ 非開示の別</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：) </p>
--------------------------	--

<p>庶務担当課</p>	<p>教育部 図書館 (電話：564-1284)</p>
--------------	------------------------------

(日本工業規格A列4番)